

生産終了予定品

# BANばんチェッカー

## ECB00

幹線の探索はおまかせ。  
受電点と分電盤間の接続経路を  
簡単・安全・確実に探索。

工場設備やテナントビルなどの改修の際、  
変更したい分電盤がキュービクルのどの遮断器と  
接続されているか活線状態で確認できます。

### ■簡単!

電気を切らずに簡単に探索!!

活線状態で確認できますので、停電することなく接続経路を確認できます。

### ■安全!

クランプCTで電線にワンタッチ装着!!

チェックはクランプCTで行いますので、電線の上から無停電かつ安全に  
作業できます。

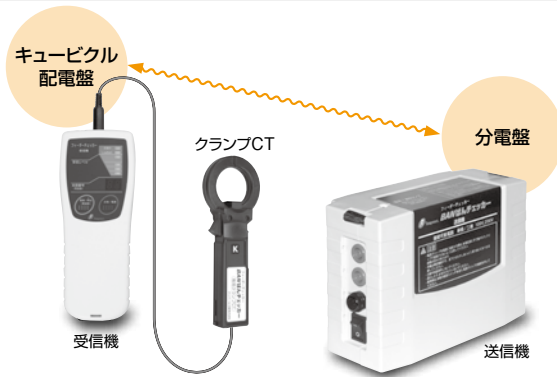
### ■確実!

LEDと番号表示でわかりやすい測定結果!!

測定結果は、LEDと回路番号の表示でわかりやすく表示されます。

測定値は記憶されるから、メモが不要!!

メモリ機能がありますので、チェック結果をいちいちメモする必要があり  
ません。ボタン操作により、結果がひとめでわかります。  
(最大99フィーダー分の信号レベルを記憶)



型式	ECB00	
チェック対象電気方式	三相200V、単相100/200V、単相100V	
線路探索回路数	最大99フィーダー	
外形寸法 (タテ×ヨコ×フカサ)	受信機 175×70×39mm(突起部除く)	送信機 121×174×72mm(突起部除く)
質量	360g(クランプCTを含む)	645g(電源ケーブルは除く)
付属品	ACアダプタ(9V、1.3A)、シート磁石(L125×W25.4×t1.5)2枚、電源 クリップ(大、小)各2個(電源クリップ大は、出荷時、電源コードに接続 されています。)、電源コード(赤、1.5m)2本、S字フック2個、ストラップ 1本(出荷時、受信機に取付けてあります。)、取扱説明書1部	
ご注文品番	ECB00	
納期区分	◎	
標準価格(円)	94,000	

■専用クランプCT:電線外径最大35mmのものまでクランプ可能。BANばんチェッカー受信機専用です。  
■受信機を充電しながらの使用はできません。  
■送信機の連続使用時間は約10時間です。

### 注意事項

■クランプCT、受信機およびACアダプタは、BANばんチェッカー専用です。

故障の原因になりますので、受信機の端子に他の機器を接続したり使用しないでください。

■計測対象電路が下記のような状態の場合、チェックできないことがあります。

- ・電路にブロックフィルタやソリッドステートリレー(SSR)など通信を妨げるものがある場合。
- ・電路に電圧が印加されていない場合。
- ・電路に通信信号と近似の信号やノイズがある場合。

■受信機を充電しながらの使用はできません。

充電の際は、受信機の電源を切った状態で充電してください。ACアダプタを接続し  
て充電している場合、受信機の電源は入りません。使用中にACアダプタを接続して  
充電しようとすると、電源が切れて充電状態となります。

■受信機には充電用の2次電池(ニッケル-水素蓄電池)を使用しています。

充電電池の性質上、短い放電-充電を繰り返すとメモリ効果によって充電電池の性能や  
寿命を低下させることとなります。ときどき、完全放電-充電を行ってください。充  
電池の交換および製品の廃棄の際は、お買い上げの販売店さま、または弊社営業所  
までお問い合わせください。

■送信機の連続使用時間は約10時間です。約10時間後に自動的に信号の送信を停  
止します。  
再び使用する際は、電源スイッチをOFFにしてしばらく時間を置いてから、再度ON  
にしてください。

### 操作手順

■送信機と受信機の設定

(1) 経路探索を行いたい分電盤に、「送信機」の電源クリップを接続します。

- ・単相の場合(100Vまたは200V)  
L1相とL2相または、L1(L2)相とN相に接続します。
- ・三相の場合(200V)  
R、S、Tのいずれか2相に接続します。

(2) 電源スイッチを入れます。

(3) 受電点(キュービクル、配線盤等)の各遮断器の2次側フィーダーを「受信機」に  
接続している「クランプCT」でクランプし、経路探索信号を検出します。

■受信機操作方法

(1) 電源の投入

・赤ボタン<sup>①</sup>(計測/電源)を2秒以上押すと、LED<sup>②</sup>に周波数「50」が表示されます。

(2) 周波数の選択

・電源周波数が50Hzの地域で使用する場合は周波数「50」が表示されているこ  
とを確認します。

・電源周波数が60Hzの地域で使用する場合は、緑ボタン<sup>③</sup>を押して、周波数  
「60」が表示されていることを確認します。

・緑ボタン<sup>③</sup>を押すたびに、「50」→「60」→「50」→「60」…を交互に表示  
します。

以上で、セット完了です。

※注 周波数設定が間違っていた場合、経路探索信号を検出できず正しく経路探索できません。



### 測定方法

(1) 電源周波数を表示させた状態で、計測を行う1番目の電線を「クランプCT」でクランプします。

(2) 赤ボタン<sup>①</sup>(計測/電源)を押します。

(3) 計測を開始し、回路番号表示<sup>④</sup>がクルクルと回って経路探索信号を検出します。

(4) 計測を終了すると、「ピッ」とブザーが鳴り受信レベルと回路番号(LEDに「1-」)を表示します。

(5) 同様に2番目3番目の電線を計測。計測を終了するとLEDに回路番号(「2-」  
「3-」)を表示します。

※送信機が接続された分岐であれば受信レベルが強く表示されます。送信機が接続されていない分  
岐では弱く表示されます。(受信レベルは5段階で表示されます。)

(6) 同一フィーダー(ブレーカー2次側の電線3本)ですべての電線を計測した後、緑ボ  
タン<sup>③</sup>(登録/呼出)を押して、計測値を登録します。LED表示は「01」となります。  
(分岐回路番号登録)

(7) 同様に同一バンクの全フィーダー(ブレーカー2次側の電線3本)の計測を行い登録します。

(8) すべての計測が終了したら、緑ボタン<sup>③</sup>(登録/呼出)を押すことで、登録された中から  
最も受信レベルが強かった分岐回路番号とその受信レベル、また二番目、三番目に  
受信レベルの強かった分岐回路番号とその受信レベルを表示します。(回路の特定)

